

令和2年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	実務経験のある 教員による授業 科目	基礎・専門 別	単位数	選択・必修 別	開講年次・ 時期
21110	心理学 Psychology	井手 裕子		基礎	2	選択	2年後期
科目の概要							
心理学は、「心を読む」ことの前に、行動や反応という実際に目に見える現象を科学することを学ぶことが基本である。 具体的には、心の動き（知覚、学習、記憶、言語、感情等）、臨床、発達、社会、対人関係との関連を学ぶ。グループ討議、および調べ学習、その他アクティブラーニング等を用いて、知識、技術の獲得と問題解決能力も身につけていき、客観的な証拠に基づいた科学的な視点を持つことができることを目指す。							
学修内容				到達目標			
① 心理学に関する基礎知識を学ぶ ② 心理学実験を通じて現象の客観的な観察視点を学ぶ。				① 刺激と反応、および認知の媒介、心の動き、臨床、発達、社会、対人関係に関する基礎知識を獲得する。 ② 心理学実験演習、および実験結果の考察を行い、心理学的知見を体験的に理解し、説明できるようになる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	調べ学習等の自発的な学習を行うことができる。					
	働きかけ力						
	実行力	事例検討、グループ討議等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる。					
考え抜く力	課題発見力	理論家の知見を学習した上で、そこから問題点を導き、事例につなげていくことができる。					
	計画力						
	創造力	事例の解説を土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し支援計画を考えることができる。					
チームで働く力	発信力	グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また、相互に教え合うアクティブラーニング形式の学習方法を実行することができる。					
	傾聴力	発表者の意見を自分の立場に置き換えて、発表者の意図を汲み取りながら聴くことができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	・学習意欲欠如をきたす行動をせず、ルールを守ることができる。 ・欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：藤田哲也「絶対役立つ教育心理学 実践の理論、理論を实践」 ミネルヴァ書房 その他：適宜プリントを配布する。							
他科目との関連、資格との関連							
学修上の助言				受講生とのルール			
心理学は、自分の経験に置き換え、重ね合わせると理解しやすい。自分の現実生活を想像しながら理解することを念頭において授業に参加してほしい。				授業は集中して聞き、疑問点、質問がある場合は積極的に質問すること。 ・20分を超えた遅刻は欠席扱いとする。 ・授業態度が悪い場合（居眠り、私語、周囲に迷惑をかける行為等）はマイナス扱いとすることがある。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記(レポート含む)・実技・口述試験	90	①	✓	学修内容①～②が理解できているかどうかについて、基本的な定義、概念、用語の理解を問う問題を出題し、評価する。
				②	✓	
				③		
				④		
				⑤		
	平常評価	小テスト		①		
				②		
				③		
				④		
				⑤		
		レポート		①	✓	学修内容①～②が理解できているかどうかについて、基本的な定義、概念、用語の理解等を問うテーマを出題し、評価する。
				②	✓	
				③		
				④		
				⑤		
		成果発表 (プレゼンテーション・作品制作等)		①		
				②		
				③		
				④		
				⑤		
学修行動	社会人基礎力(学修態度)	10	①	✓	(主体性) 調べ学習等の自発的な学習に主体的に取り組む。 (実行力) 事例検討，グループ検討等の困難な課題に粘り強く取り組む。 (課題発見力) 各理論を踏まえ，発達の問題点を考え，自分の発達や，事例につなげていくことができる。 (創造力) 事例の解説通りでなく，それを土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し，支援計画を考えることができる。 (発信力) 自分の意見をクラス全体にわかりやすく発表できている。 相互に教え合うアクティブ・ラーニング形式の学習を実行することができる。 (傾聴力) 静かに集中して聞き、要点を理解しようとしている。 (規律性) 学習意欲欠如をきたす行動をせず、ルールを守ることができる。欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
総合評価 割合			100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S：Aの到達レベルに加え，社会人基礎力を習得できる。 A：筆記試験，社会人基礎力（学修態度），その他（課題）の評価方法において十分な力を発揮できる。	B：筆記試験，社会人基礎力（学修態度），その他（課題）の3つの評価方法において力を発揮，もしくは2つの評価方法において十分な力を発揮できる。 C：2つの評価方法において力を発揮，もしくは1つの評価方法において十分な力を発揮できる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	オリエンテーション (心理学とは、心理学実験演習とは)を行う。	講義 質疑応答	心理学がどのような科目であるかを知ることができる。心理学実験演習の概要を理解でき、説明することができる。	予習： テキスト0章を読む。 復習： プリントに記載されている心理学の概要を見直す。	90 90	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力
2週 /	学習行動の基礎を学ぶ (学習理論)	講義 アクティブラーニング	心理学の理論的潮流である行動主義、認知主義について理解でき、説明できる。また、学習とその転移・構え、分散および集中学習についても説明できる。	予習： テキスト第1章p15～29を読む。 復習： テキスト、プリントの、「学習」について書かれている箇所を見直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3週 /	動機づけを学ぶ	講義 グループ討議 前回の配布プリントのフィードバックおよび解説	生理的および社会的動機、内発的および外発的動機、学習意欲と学習無力感について体験的に理解できる。特に学習意欲を高めるための方法についてシミュレーションできる。	予習： テキスト第2、3章p31～55を読む。 復習： テキストとプリントに記載されている「動機づけ」の箇所を見直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4週 /	知覚・記憶を学ぶ。 (知覚の仕組み、記憶の仕組み)	講義 グループ討議 前回の配布プリントのフィードバックおよび解説	知覚と記憶に関する基礎知識を獲得できる。	予習：テキスト第4章p57～70を読む。 復習： テキストとプリントに記載されている知覚と記憶の箇所を見直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5週 /	心理学実験演習を行う。 (1) 記憶力テスト他	心理学実験演習	記憶力テストの体験を通して記憶とは何かを説明できる。	 復習： プリントを見直す。	 180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
6週 /	記憶を学ぶ (記憶の効率的な方法)	講義	記憶の定義とメカニズム、記憶の種類について体験的に理解でき、説明することができる。	予習： テキスト5章p71～84を読む。 復習： テキストとプリントに記載されている記憶についての箇所を見直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
7週 /	感情心理学を学ぶ	講義 グループ討議 前回の配布プリントのフィードバックおよび解説	感情の基礎知識を獲得できる。	予習： プリントに記載されている感情について書かれている箇所を読み、わからない用語を調べてくる。 復習： 感情についての記載を完成させたプリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8週 /	パーソナリティを学ぶ	講義 グループ討議 前回の配布プリントのフィードバックおよび解説	人間の性格について基本的な知識を説明することができる。	予習：パーソナリティに関するプリントを読み、わからない用語を調べてくる。 復習： プリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	発達について 発達を規定するものは遺伝か環境か	講義 グループ討議	遺伝と環境による発達の考え方を説明することができ、早期教育について討論することができる。	予習： テキスト第8章p117～131を読む。早期教育について考えてくる。 復習： 発達の概念について完成させたプリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10週 /	発達について 発達理論家の発達について 学ブーボウルビー、フロイト	講義 前回の配布プリントのフィードバックおよび解説	発達段階における関係性の重要性を説明することができる。	予習： テキスト第9章p133～149を読む。 復習： 発達理論について完成したプリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
11週 /	ピアジェの発達理論	講義 前回の配布プリントのフィードバックおよび解説	ピアジェの認知発達について理解し、説明することができる。	予習： テキスト第8章p117～131を読む。 復習： テキスト第8章p117～131を読み直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
12週 /	人間発達を学ぶ(1) 胎児期、乳幼児期	講義 グループ討議 前回の配布プリントのフィードバックおよび解説	乳幼児期の言語、対人関係、等を中心として各発達段階の特徴を理解できる。	予習： テキスト第9章p133～149を読む。 復習： 胎児期、乳幼児期に関する記載を完成させたプリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
13週 /	人間発達を学ぶ(2) 児童期、青年期	講義 グループ討議 前回の配布プリントのフィードバックおよび解説	児童期の特徴、思春期、青年期に重要なアイデンティティの考え方を理解し、自分に置き換えて説明することができる。	予習： テキスト第10章p151～168、第12章p183～200を読む。 復習： 児童期、青年期の特徴に関する記載を完成させたプリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
14週 /	人間発達を学ぶ(3) 成人期、ストレスマネジメント 老年期 記憶の問題	講義 グループ討議 前回の配布プリントのフィードバックおよび解説	成人期のストレスマネジメントについて理解し、自分に置き換えて考えたうえで、説明することができる。老年期の特徴を説明できる。	予習： ストレスマネジメントに関するプリントを読み、分からない用語を調べてくる。 復習： 成人期の特徴、ストレスに関する記載を完成させたプリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
15週 /	全体の振り返りとまとめ	講義 グループ討議 前回の配布プリントのフィードバックおよび解説	振り返って心理学が自分の今後の生活にどのように役立つかを考えてみる。	予習： 今まで授業した部分のテキスト、プリントを読み、質問を考える。 復習： テキスト、プリントを読み直す。	90 90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力